

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795400078		
法人名	(株) ケアサービス豊見		
事業所名	グループホーム チャーがんじゅう		
所在地	豊見城市字与根217-2		
自己評価作成日	令和8年1月22日	評価結果市町村受理日	令和8年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ligosyoCd=4795400078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和8年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、豊見城市与根の静かな部落に位置し、車や人の往来が少ない落ち着いた環境の中で、認知症のある方でも安心して暮らし続けられるホームです。住み慣れた地域で、これまでの生活や人との繋がりを大切にしながら、穏やかな日常を送っていただけるよう支援しています。施設内は家庭的で開放的な雰囲気を大切に「介護を受ける場所」ではなく「生活の場」として、一人ひとりが自分らしく過ごせる環境作りに努めています。また、事業所の裏には小さな畑がや花壇があり、季節に応じた野菜作りや、天気の良い日には日光浴や外気浴を楽しむなど、自然と触れ合いながら季節を感じる生活を取り入れています。私たちは、認知症になってもその方がこれまで培ってこられた価値観や人生を尊重し、その人らしさを支えるケアを実践しています。利用者を一人の生活者として尊重し、人としての尊厳を守りながら、安心して穏やかに暮らし続けられる住まいを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な地域に位置し、落ち着いた環境の中で、利用者が「生活者」として穏やかに過ごせる体制を整えている。「何事にも感謝」という理念を毎朝、唱和することで職員の意識を高め、多忙な際も利用者の尊厳を尊重する丁寧なケアに繋がっている。地域社会との絆が非常に深く、自治会への加入や行事への参加に加え、畑を通じた野菜や果物の物々交換といった住民との日常的な交流が事業所の開放性を高めている。食事面では、調理師免許を持つ職員を中心に旬の食材を活かした献立を提供し、日曜日の「料理の日」には利用者と共に調理を楽しむなど、食を通じた彩りのある生活を支援している。個別支援においては、離島への帰郷や実家への帰省、思い出の場所への訪問など、一人ひとりの強い思いを汲み取り、実現に向けた寄り添った対応が随所に伺える。日々の散歩も自由に行える家庭的な環境の中、地域の一員として本人が培ってきた価値観や人生を尊重し、自分らしく暮らし続けられる住まいづくりを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の前に唱和することを継続しています。理念に沿った志を意識し、ケアに活かすよう努めています。	玄関先に理念を掲示し、毎朝の朝礼で唱和することで業務開始前の意識を整えている。多忙な際も理念に立ち返ることで感情をコントロールし、落ち着いた支援に繋げている。「何事にも感謝」という言葉を大切にした対応に努めており、職員からの共感も厚い。日頃から理念を意識したケアが実践されていることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の大半が地域の方という事もあり、入居者ご家族をはじめ長年馴染みのある方が気軽に足を運んだり、お隣同士の声掛けなども見られます。	今年度から自治会に加入し、地域の行事や農協・漁協のイベントに積極的に参加している。地域から借用した畑での栽培を通じ、住民との物々交換や差し入れ等の交流が日常的に行われている。近隣住民が気軽に立ち寄り野菜を販売に訪れるなど、事業所が地域の一員として深く根ざし、良好な関係を築いていることが伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、アルツハイマーデーの月(9月)に、豊見城市役所内で認知症についてのパネル展や作品展示(市内事業所の利用者手作り作品)に作品を出展しています。作品を一人でも多くの方に見て頂き、認知症の理解を深めて頂けるよう作品作りに努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて活動報告を書面内の文書だけではなく、写真もお見せして委員会の方々にも活動へ参加する入居者の表情もみていただくような工夫もおこなっています。委員会の意見などは、職員間で共有しています。	2か月に1回対面で会議開催し、活動報告に写真を用いる等工夫している。構成員に元利用者の家族が地域代表で参加し継続的な関係性が伺える。議事録は開催毎に整備し玄関先で公開するなど前年度の課題を改善している。地域の高齢者支援に関する相談もあり、活発な情報交換を通じてサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や他の施設ケアマネから、空き状況の確認等があれば情報を積極的にお伝えし、入所へと繋がられるよう協力体制を取っています。	運営推進会議を通じて市町村と情報交換を行い、窓口訪問時には空床状況や生活保護関連の調整を密にするなど協力体制を築いている。包括支援センターからの実習生受け入れは、職員が初心に立ち返り自らの支援を振り返る好機となっており、継続的な実施を方針とするなど、関係機関との積極的な連携強化に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、玄関の施錠に関しても身体拘束の一つに含まれている事をチームで理解し身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。	身体的拘束等の適正化委員会を2か月に1回開催し、指針やマニュアルを整備している。研修では基礎知識を学び、拘束をしないケアの実践に努めているが、年度内の実施は1回に留まっている。全職員が禁止対象行為を正しく理解し、玄関の施錠等を含めた拘束をしないケアの継続と定期的な研修実施による意識の定着が望まれる。	身体的拘束等の適正化に向け、年2回の定期的な研修実施が望まれる。会議録については、その時々具体的な検討内容や改善策が反映されるよう、記録の充実を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しての勉強会も開催し、入居者だけではなく施設外での虐待に関しても見過ごさないよう注意をはらい、もしもの対応策も職員間で把握に努めています。	虐待防止に向け年2回以上の委員会開催や指針の整備を行っている。月例ミーティング後の勉強会では事業所外の虐待も意識した対応策を協議している。研修を通じ防止体制の構築に努めているが、報告書の作成状況が確認できなかった。	虐待防止に向けた定期的な研修の実施に対し、その内容や参加状況を報告書として適切に作成・保管することが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会にて「権利擁護・成年後見制度」の勉強会を行い、理解するように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず施設見学を行っていただき、どのような施設なのか説明をし納得いただいた上での契約となります。また、契約の際には契約内容・重要事項説明書も分かりやすい内容でご説明を行い、入居者ご本人またはご家族のご理解の下ご契約を交わしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との連絡を密にとっており、ご家族が職員へ意見しやすいような関係づくりに努め、意見があれば職員全体で情報共有を行いご家族の意見を反映させています。	利用者の要望に応じドライブや外食の実現に努めている。面会時には家族へ直接状況を伝え、意向を確認する機会を設けている。看取り介護において、愛用の着物を着せたいという家族の希望を職員の協力により実現した事例がある。本人や家族の思いを真摯に受け止め、日々の支援や運営へ柔軟に反映させている状況が伺える。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月のミーティングにて職員の意見を聞く場も設け、意見を反映させています。普段より、コミュニケーションを密に図るようにしています。	LINEを活用し、利用者や業務に関する報告や連絡、相談などタイムリーに行っている。日々の申し送りや月例ミーティングでも職員の提案を運営に反映させる体制を整えている。外出支援の充実に向け職員より車椅子対応車両の借用に関する提案があり、実現に向け検証し、職員の意見を尊重する姿勢が伺える。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働き、向上心を持って業務に取り組めるよう、風通しの良い環境づくりと業務体制の見直しを行い、業務負担の軽減や働きやすい環境を整えるよう努めています。また、日々の取り組みが適切に評価され、やりがいや達成感を感じられる仕組みを整えます。	管理者は風通しの良い職場作りに尽力し、派遣会社の導入で業務負担を軽減し利用者へのゆとりある支援に繋げているが、健康診断の実施状況が確認できなかった。ハラスメントの防止に向け研修を実施し、制度の理解に努めているが、就業規則への規程追記や相談窓口の設置が確認できなかった。	前年度の継続課題が未改善であり、職員が安心して働ける環境を整えるため、健康管理体制の構築やハラスメント防止規程の整備を通じた職場環境の改善が強く望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者自身が向上心をもってスキルアップに努めると同時に、研修で学んだことを施設内勉強会として伝え、職員のスキルに応じてコーチングやティーチングをおこなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入や、研修を通して他の事業者とのネットワークづくりに努めている段階ですが、まだまだ横の繋がりが(特に市内)に力を入れていきたいと思っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議の開催を行い、ご本人が困っている事や不安なことに日頃より傾聴する姿勢を大切に関係づくりに努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご契約前より、ご家族が一番何に対して不安なのか、また、ご本人がどのように過ごしてほしいのか、という想いにしっかりと耳を傾け、サービスを導入するうえで不安を解消できるようなケアの提供と密にご家族との関わりも積極的にとるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の情報と、入居後の必要とするケアの相違が多少生じる事もありますが、その場合は職員間・ケアマネ・看護といったチーム連携を図り、最優先となる支援の検討をおこない適切なケアが提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思の尊重と、意思表示支援の為に必要な環境の整備や、個々に合わせたペースに寄り添うケアを心かけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いに寄り添い、これまで介護してきたことへのねぎらいお言葉や、感謝の言葉、繋がりや、信頼をおいて頂けるような言葉にも配慮し、ご家族に対しても、傾聴・受容・共感・を大切にしたい心配りに努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	閉ざされた環境をつくらないよう、家族・地域との関係が途切れないような支援に努めてまいります。	ドライブ外出の際に利用者の実家へ立ち寄るほか、本人が植えたトックリキワタの木をリクエストに応じて見に行くなど、馴染みの場所との繋がりを大切にしている。大切にしてきた環境が途切れないよう本人に寄り添った支援に取り組んでいる。また畑を通じた近隣住民との定期的な交流もあり、地域に開かれた関係の継続が伺える。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置の工夫や、レク活動を通して孤立しない関係づくりを行うよう心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご相談があれば、必要に応じて本人・ご家族へのフォローを行うよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の意向やご家族の要望・意見を聞きとり、個々の思いに寄り添ったケアを提供できるよう努め、意思伝達が困難な方に関しては、ご家族の思いと本人の思いを引き出せるような声掛けの工夫を行っています。	日常の会話から利用者の思いを汲み取り、申し送り等で職員間での即座な共有を図っている。出身地である離島への訪問希望に対し家族と調整し実現や墓所に関する意向を家族へ代弁する等の事例がある。本人の意向を尊重し、本人本位の生活を支える姿勢が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャー、他施設での情報など本人に関連する情報収集を行い、職員間で共有・周知に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間を通して、日中・夜間での状況など本人の状態を、職員間での把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の観察に努めながら、本人・ご家族・各関係機関へ情報を共有しています。課題となるケアを担当者会議にて、管理者・ケアマネジャー・担当介護職員が参加し、課題解決に向けての介護計画の作成を行うようにしています。	利用者の状態変化に合わせ、家族や多職種と協議し、訪問診療への移行した事例などがあり、計画を随時見直している。一方、介護計画の長期目標と短期目標の期間が共に1年と同一に設定されている。	前年度の課題が未改善であり、適切なモニタリングを行うためにも、目標ごとの期間設定と見直しが望まれる。介護計画担当者との連携を密にし、現状に即した適切な期間設定と運用を図ることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録を行い、職員間で情報共有を行いながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態把握に努めており、ご家族や関係機関(訪問看護、訪問診療・訪問マッサージなど)の柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住人との関わりを大切にし、ご近所から頂いたお野菜を入居者と一緒に綺麗に洗い料理に取り入れ、皆で美味しくいただくことで、食を楽しむことが出来るような支援も行っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診をご家族に行っていただくことで、本人とご家族との結びつきを大切に、かかりつけ医へ事業所からの現状報告書とてかかりつけ医へ提供しています。また、職員間でも情報の共有を行い、ドクターコメントがある際も職員間への申し送りや関係機関への報告も行うようにしています。	入居前からのかかりつけ医を利用している利用者、入居後に訪問診療に切り替えた利用者がいる。病院受診に抵抗感のある利用者に対して、家族と話し合い訪問診療に切り替えることで、医師の診察を受けることができるようになった利用者もいる。かかりつけ医以外の他科受診については、家族が同行している。その際の情報共有について、現状報告書を作成している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の訪問看護師への状態報告を行い、状態変化や気になる症状がある方に関しては、看護師へ相談し適切な受診が受けられるよう支援しています。また、ご家族への報告も行うよう徹底しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状が悪化しないよう早期の段階での受診を、ご家族にご理解とご協力を頂き受診への対応を行っています。また、救急での受診が必要になった場合(発熱など)医療機関の地域連携室へ連絡し、緊急時の体制も整えるよう努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の内容をご家族へ説明し、理解と同意を得ています。内容については、職員間で共有し重度化した場合には、再度、ケアの方針をご家族・関係機関と見直しと再確認を行うよう努めています。	重度化・終末期に向けた指針が策定されており、入居時に家族に説明し、同意を得ている。看取りケアの研修では、厚生労働省発行のガイドラインを参照して実施した。昨年11月には、事業所内での看取りを実施した。1週間程度、毎日家族が付き添い見守ることができた。家族からの感謝の言葉や振り返りにより今後の看取り支援の方向性を共有している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時マニュアルの把握と、緊急時の対応を定期的に行い実践力を身に付けています。また、消防署での普通救命講習を受け、緊急時の対応能力を身に付けるよう努めています。	急変時や事故発生時の対応について、緊急時マニュアルが策定されている。マニュアルに沿って、ヒヤリハットや事故について、事故防止の為に検討会議で検討し、必要な報告を行っている。AEDの使い方についての勉強会や外部研修に参加して、実践力を身につける取り組みを行っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、 自然災害発生時や感染症発生時の業務継続計画を策定し、研修や訓練を定期的の実施している 。感染症の予防 及び まん延防止のために委員会の開催 や 指針の整備 を行ない 、研修及び訓練を定期的の実施している。	消防避難訓練を年2回実施し、災害時の対応を日頃から職員一人一人が意識を持ちそなえています。防災マニュアルを作成し、定期的に委員会を開催し指針の再確認や課題等があれば改善に取り組むよう努めています。備蓄についての備えがまだ不十分なので早速に対応していきます。	5月に昼間想定、12月に夜間想定避難訓練の実施を確認した。訓練の様子を撮影し、報告書に写真が添付されている。災害及び感染症の発生時における業務継続計画が策定され、業務継続計画の理解、感染症対策についての研修実施が確認できた。検討委員会の開催は確認できなかった。備蓄について、一覧表は策定されているが、賞味期限の見直しや保管について未整備がある。	感染症対策についての検討委員会の開催と業務継続計画の備蓄一覧表について、賞味期限の確認や一覧表に即した備蓄の保管等の整備が求められる。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の内的世界を理解し、共感・傾聴・尊厳の意を持つ持ち、自尊心を傷つけないような言葉かけに十分に配慮しています。また、思いやりの心で話は分かりやすく、馴染みのある言葉で伝えコミュニケーションは愛を持って接するよう心がけています。	理念には、「心かよわせて声掛け心で話を聞く」と記載されており、職員は、理念に基づき利用者の人格の尊重に配慮して支援を実施している。プライバシーの確保について、守秘義務の遵守が入職時に誓約書を提出している。排泄誘導等の声掛けを、利用者個々に合わせた対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような声掛けの工夫を行うようにしています。例えば、何がしたい・何が食べたい・好きな物など、本人が答えやすいような言葉かけを行い、本人の思いを引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝昼晩と時間の感覚を持ってもらうよう、基本的に朝は体操・昼はレク活動を行うようにしていますが、本人の意思を尊重し強制的に活動に参加させるのではなく個々のペースも大切に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容や、洗顔、入浴等、本人が清潔感をもって気持ちよく過ごせるようなケアを行っています。本人にも身だしなみを意識してもらえるよう整髪を促したり、出来ないことは一緒に行っています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日は、『料理の日』として活動をしており、食材を切る作業から炒める・焼く・片付けまでを職員利用者と一緒になって取り組んでいます。	食事については、毎食職員による手作りで提供している。裏の畑で収穫した野菜や、地域住民の方からの差し入れ等を活用している。日曜日は、利用者と料理をする日と設定して、準備から調理までできる作業に取り組んでいる。又、ムーチャーづくり等の行事食を一緒に作り楽しむ取り組みを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を毎日記録しており、水分の少ない方には本人が好む飲み物を提供したり、それでも水分を拒む場合にはゼリーにして提供したりと工夫を凝らしています。また、食事に関しては本人が食べやすいよう刻み食や、ミキサー食にて食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、欠かさず行い自己にて歯ブラシが難しい方は職員介助にて口腔ケアを徹底して行っています。また、週1回、訪問歯科が介入し、口腔チェックや必要な方は口腔指導も受けています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援しています。	排泄については、トイレの入り口に排泄チェック表を配置し、迅速にチェックして職員間で共有している。夜間にポータブルトイレを使用している利用者は1名で、安全に配慮して支援している。排泄チェック表を分析し、利用者個々のタイミングを把握して、誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因とならないような食事の工夫(食物繊維や野菜を多く取り入れる)や、適度な運動、水分摂取量のチェックを行いながら水分を促し便秘予防に努めています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日を作ってはいますが、本人の体調をみながら個々に沿った入浴支援を行っています。入浴拒否がある方に関しては、入浴への声掛けや時間帯など本人のペースに合わせた支援を行うようにしています。	入浴については、入浴チェック表を作成して浴室の入り口に配置して、入浴状況について職員間で共有している。基本は、週に3回の入浴としているが、希望に沿って対応していて、毎日入浴する利用者もいる。浴室には、3種類のボディークリームが用意され、利用者個々の好みに応じて使用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や入眠パターンを把握し、個々に合わせた時間で休息や就寝が安心できるよう、居室環境を整えベッド上も清潔にするよう努めています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤管理を訪問薬局の薬剤師にて管理。本人の薬情を職員間で共有し、薬剤師と連携を図りながら薬の支援を行い、本人の状態に変化があればかかりつけ医、薬剤師へ相談しています。また、誤薬対策として服薬前に職員でダブルチェックを欠かさず行い、薬の飲み忘れがないよう服薬後は記録用紙へのチェックも徹底しています。	服薬介助についてのマニュアル、フローチャートが作成され、事務所に掲示されている。配薬は、訪問薬局が管理しており、訪問薬局提供の勉強会を事業所で開催した。今後も定期的に開催する予定になっている。受診後の投薬変更情報については、ファイリングと申し送りノートに記載し、職員間で情報共有を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割を見出し、日常生活の中で行えるよう支援を行っています。(洗濯物たたみ・洗い物・お茶の提供など)気分転換として、天気の良い日には縁側で日光浴をしたり、室内外での活動を取り入れながら気分転換を図っています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、外出する機会を設け(毎月のイベント事)季節に応じた場所への外出支援を行っています。	近隣のビーチや漁港に定期的に外出している。利用者の実家の樹木が開花しているか確認したいという要望に対して、利用者の記憶をたどり外出支援を行った。通常は、事業所の車で小人数での外出支援を行っている。人数が増える際には、系列の事業所から車を借用し対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、紛失したり、本人が隠したり事もありトラブルの原因となる為、基本にご家族がおこなっています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からのご要望があれば、電話をかけるのは職員にて対応し本人が話したい方とのやり取りができるよう支援しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や飾りつけを職員、利用者で行いながら(作業療法として取り入れる)季節感を感じていただいています。また、共有スペースは、居心地よく過ごせるような工夫として利用者の席の配置考え、個人が孤立しないように楽しい時間を共有できるよう努めています。	玄関には、花壇が設けられており季節に合わせた花が植栽されている。利用者は、職員とともに水かけや剪定等の手入れを行っている。利用者が、日中を過ごす2ユニットの間にある広い共用空間には、作業療法として実施した作品や季節ごとの飾りつけを行い居心地の良い環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースへソファを配置したり、本人の気分次第ではいつもと違う席に座れるような配慮もしながら気の合った利用者同士が思い思いに過ごせる工夫を行っています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のお仏壇や宗教的なものに関しては要相談ですが、基本的には自宅に近い環境を作るため本人の馴染みあるものや、ご家族のお写真なども飾り本人が居心地よく過ごせるような環境作りに努めています。	居室には、電動ベッド・クーラー・カーテンが備えられている。タンス等の収納家具は、自宅から持参している。ソファや机・テレビ等、使い慣れた家具等を持参している利用者もいて、家族の写真や思い出の品等をおいて、自宅に近い環境を整備し、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の共有スペースや居室内の家具の配置は安全に配慮したレイアウトにし、本人の混乱を招かないように、出来るだけレイアウトや雰囲気ガラツと変えないようにしています。安全かつ自立した生活が送れるよう、歩行スペースを広く確保。また、個々の能力を落とさないよう「できること」「わかること」を活かせるような声掛けを行い取り組んでもらうようにしています。		